□議員名：脇本直美

1　不登校の根本要因についてと、いじめ・学校環境の実態と今後の取組について

論点	不登校児童生徒のうち、いじめが主たる要因と判断されているケースの件数や状況は把握できているか。また、国や県の調査様式とは別に市独自の管理様式や方法を考えたことはないのか。
回答	不登校の原因というのは様々な要因が絡んでおり、はっきりといじめのために学校に行けないという報告はない。子供に寄り添って直接話を聞いている。

論点	市内各校にいじめ対策委員会が設置され、定期的に開催されているが、いじめとして認定されるまでの判断基準は統一されているか。
回答	いじめ防止対策推進法第２条にいじめの定義が載っていて、この定義に従って認知している。

論点	令和６年度までのいじめの認知件数の増加を、市はどのように捉えているか。
回答	いじめ認知件数の増加は、学校が真摯にいじめに向き合い、丁寧に対応を行った報告であると認識している。

論点	当事者の抱える心理的要因について、「人間関係のこじれ」「先生や教室の雰囲気になじめない」「特定の先生の言い方がつらい」などの当事者の声に対し、どのような認識の上で対応をしているか。
回答	当事者である児童生徒の思いをしっかり聞き取って寄り添うことを大切にし、適切に対応している。

論点	スクールカウンセラーは、子供にとって使いやすいか。利用実績はどうか。利用後、子供や保護者へのアンケート調査は行っているか。
回答	各学校で月当たり約２回の実施。令和７年度の各学校での利用実績は、１回平均４、５人の相談対応をしている。利用後のアンケートは実施していない。

論点	タブレットを活用した相談機能は子供にとって使いやすいものになっているか。また、内容や利用実績はどうなっているか。
回答	児童生徒の状況把握のために、生活アンケートを毎週実施している。不慣れな小学校低学年児童には、紙媒体でアンケートを実施。相談したいことが「ある」との返事から相談に繋げる形にしている。

論点	子供たちにとって学校や教室が安心できる居場所、楽しい居場所であるために、今後どのような学校環境を目指し、改善を進めていくのか。
回答	笑顔と学びがあふれる学校の協創の下、心理的安全性の高い楽しい学校づくりを目指し、児童生徒一人一人にしっかりと寄り添い、児童生徒が安心して楽しく生活できる学校づくりを進めていく。

2　指定ごみ袋の供給不安に対する、本市の取組について

論点	全国的な品薄・原材料不足を受け、市は承認事業者に対し、現在の原材料在庫や今後の納品予測について、どこまで具体的なヒアリングや情報共有を行っているか。
回答	卸売業者からは、原材料在庫には問題はなく、ごみ袋は製造することができ、例年どおりの供給量を確保が可能であり、継続的に納品できる状況であると説明を受けている。

論点	前年と今年５月までの販売数量などの比較はどうなっているか。
回答	卸した数について、令和７年４月は３３万５００枚、令和８年４月は３９万6,０００枚で、６万５,５００枚の増加。令和７年５月は２７万５,０００枚、令和８年５月は５５万３,５００枚で２７万８,５００万枚の増加となっている。

論点	自主流通方式ではあるが、原材料高騰による価格転嫁（値上げ）が行われる場合、値上げに至るまでの経緯や、価格変更等についての相談や報告はあるか。
回答	この方式では、市は指定ごみ袋の販売価格に関与することはなく、

	原材料高騰に伴う価格転嫁も、卸売業者や小売販売店の自主的な判断に委ねている。卸売業者からは報告を受けている。

論点	市の指定ごみ袋なので、値上げの経緯や根拠について市民に分かりやすく説明することや、平常時以外の緊急事態の場合の要綱や取決めについて検討をしたことがあるか。
回答	市では価格については一切関与しないため、市からは何の意見も申し述べていない。現在は、市が口を挟むことは考えていない。

論点	品薄が深刻化した場合について、市独自のバックアッププラン（緊急対応）や、他市のような指定外ごみ袋での排出特例や、一時的な供給制限（買いだめ防止策）などの対応基準を設ける考えはあるか。
回答	深刻な品薄状態に陥った場合、指定ごみ袋以外の袋でも透明または半透明の４５リットル以下の容量の袋での臨時措置の実施を検討している。市は販売価格・販売量については一切関与していないので、対応基準を設けることはできない。

論点	臨時措置を決定した場合、どのような手段・タイミングで市民に周知するのかについて、どのように計画を立てているか。
回答	直ちに市ホームページ、公式ＬＩＮＥ、ごみステーションへの貼り紙等を通じて、指定ごみ袋以外でも出せるようになったことを周知したいと考えている。

論点	販売価格の値上げ、売り切れによる入荷待ちなどが見受けられ、市民から不安の声を聞く。市民の不安を解消するため、今後市はどのような取り組みを行うのか。
回答	市民の皆様には、過度な購入は控え、ふだんどおり必要な分だけの購入の協力をお願いするとともに、生ごみの水分を徹底的に除去したり、雑紙、紙類は分別して出したりするなど、ごみの減量化を呼びかけていきたいと考えている。